

2010年5月12日

文部科学大臣 川端 達夫様

放射能のゴミはいらない！市民ネット・岐阜

高速増殖原型炉「もんじゅ」運転停止の緊急申し入れ

2010年5月10日20時50頃、制御棒（微調整）挿入を中止しました。5月10日に日本原子力研究開発機構（以下、「原子力機構」）は原因を運転員のミスと発表しました。

しかし、単なる運転員のミスではなく、

- ・ 運転訓練欠如の実態
- ・ マニュアルに重要な記載欠落の実態

という「もんじゅ」を動かす資格に欠ける組織・原子力機構の姿が明らかになりました。

「もんじゅ」はナトリウム漏えい火災以降14年半もの間、運転再開のために約2,300億円もの国家予算で訓練と改造工事を行ってきました。いまさら訓練してなかったとの言い訳は許されません。

5月11日の記者会見でもんじゅの所長は「シミュレーターですべての運転操作を経験できるわけではない」（読賣新聞 福井県内版 2010年5月12日）と強弁しています。ならばそれを乗り越えるための対策が当然施される必要があります。ところが現実は何の対応もありませんでした。このような組織がもんじゅを運転しています。このような組織にプルトニウムとナトリウムを操る「もんじゅ」を扱う資格はありません。「もんじゅ」は即時停止してください。

5月10日に1日中警報器が鳴り響いていました。制御棒という安全の要である重要機器の扱いすら訓練されていない実態が明らかになりました。国は「もんじゅ」の運転再開を認めましたがその根拠が根本から揺らいでいます。国民の安全・とりわけ1年の大半が「もんじゅ」の風下地域である岐阜県民の安全が脅かされようとしています。

大臣は検証を指示していますが、運転を停止させた上で検証させてください。

5月11日に原子力機構から説明を受けた各紙は、以下のように伝えています。

14年5か月間のもんじゅの停止中、運転員らは中央制御室を忠実に再現した設備「シミュレーター室」で訓練を重ねてきた。しかし、今回のような微調整用の全挿入操作時に速度が遅くなることまでは訓練していなかったという。

向所長は「シミュレーターですべての運転操作を経験できるわけではない」と認めた上で、「おかしいと思って、止めて調べた。より安全を考えてのことで、運転員らの対応には問題はなかった」と釈明した。

（読賣新聞 福井県内版 2010年5月12日インターネット版抜粋）

高速増殖炉「もんじゅ」（敦賀市）で10日夜、制御棒の挿入作業が運転員の操作ミスで一時中断した問題で、日本原子力研究開発機構は11日、制御棒の全挿入手前では挿入速度が遅くなると知らずに運転員が操作していたことを明らかにした。炉心確認試験のための手順書にもこのことを記載していなかった。（福井新聞 2010年5月12日インターネット版抜粋）

以上

放射能のゴミはいらない！市民ネット・岐阜 代表 兼松秀代